

活動報告書

報告者氏名：藤原 秀文

所属：小野市立大部小学校

記録日：2013年2月23日

【対象児（群）の情報】

・学年

小学1年生の女子1名

・障害名

両感音性難聴 平均聴力レベル右 63.8dB、左 92.5dB（純音による）[平成23年1月]

・障害と困難の内容

補聴器を両耳装着している。右耳が30dB～40dB程度まで、左耳45dB～50dB程度で聞こえているので、ほぼ右耳で聞いている。ただ、他の子より聞き取ろうと集中する時間が長いため疲れやすくなることも考え、特定の時間のみ、FMマイクを使用している。FMマイクを使用するとよく聞こえるが、電池の消耗が早いのでコスト面で問題がある。そして、FMマイクを使用すると、自分で聞き取ろうと集中することが少ないので、下記の聞き取りにくい場面で主に使用することとした。

本児の聞き取りにくさ、発声のしにくさが生じる環境として、主に次の4点が挙げられる。

○周囲が騒がしいと聞き取りにくい。特に、音楽の場面で、新しい歌を覚えるのに、時間がかかる。歌を歌うときに、音程がずれることがある。

○一度にいろんな人が話すと聞き取りにくい。

○後方からの声が入りづらい。

○生活科などの屋外場面や体育館などの遠くから話す場合、聞き取りにくい。

【活動目的】

・当初のねらい

・水泳では、補聴器を外して学習する。よって、コミュニケーション支援ツールであるiPadを使って、聞こえにくいというハンディキャップによる集団参加の心理的抵抗を軽減し、自主的活動を促す。

・対人関係を深める会話スキルを含めたソーシャルスキルを獲得し、コミュニケーション能力を高める。

同じ言葉でも意味が違う場合（例；「今日もジュースがいい（良い）。」「今日は、ジュースはいい（いらぬ）。」等）、場面の状況、相手の表情や助詞の違いなどを認識することにより、双方向のコミュニケーションを成立させる。また、発達段階に応じた生活の様々な場面を想定し、そこでの相手の言葉や表情、状況などから、相手と関わる際の具体的なコミュニケーション方法を身につける。

・自立活動では、聞き分け、発音、単語の書字、コミュニケーションスキル等の学習で『聞く』『話す』能力を高める。

発声・発語器官（口腔器官）の微妙な動きやそれを調整する力を高め、正しい発音を習得する。

・実施期間

水泳指導 [6月9日～7月18日]

自立活動（ことば）[6月上旬～3月下旬]

家庭学習（ことば）[1月下旬～3月下旬]

・実施者 藤原 秀文（特別支援教育士、学校心理士）

・実施者と対象児の関係 難聴学級担任

【活動内容と対象児（群）の変化】

- ・対象児（群）の事前の状況

【水泳】

本児は、保育園の時から水遊びをしていた。本担任が、8月上旬に当園へ特別支援を要する幼児の観察をした。本児は、補聴器を外して、聞こえない状態で活動していた。本児は、他の幼児の動きを見ながら行動することが多かった。保育士は、本児が理解できていないと判断した場合に、口元が分かるようにゆっくりと言語指示を与えた。短い言葉での指示を理解するといったように、本児の口話力のみを頼っていた。

【自立活動】

〈発音〉

本児童は、4月当初、交流学級では、クラスメイトの話が気になり、交流学級担任の指示が聞こえにくかった。また、右耳の方が聞き取りやすいので交流学級での座席は、黒板に向かって左端、前から2番目のところで学習していた。聞こえることを確認し、2学期は3番目、3学期は4番目に座席を移した。

また、本学級では、各教科を含む自立活動を中心としているマンツーマン指導である。発音に関しては、主に、構音障害による置換が多い。例えば、『ぎゅうにゅう』→『じゅうにゅう』『ひきざん』→『ひきだん』などである。また、単音だと、子音が省略されることがある。例えば、『ひ』→『い』、『で』→『え』などである。新奇な言葉による聞き間違いから起こる誤発声、聞き間違いを覚えてその発音が正しいと思う誤学習、舌の使い方等機能的操作ミス、発音できるが気が抜けて発音ミスするときなどである。

〈会話スキル〉

本児が、マンツーマンで友達と話をし、聞き取れないときに「何。」と聞き返すことがある。また、本児の日常生活において、友達との意思疎通のすれ違い（コミュニケーションの問題）により、本児が疎外感を感じる場面がみられた。具体的事例として、下校時に友達同士が遊ぶ約束の話をしているところに、「(嬉しそうに) 何。」と加わろうとしたが、「関係ない。」と言われた。帰宅した本児が落ち込んでいたので、母親が理由を聞いた。次の日に学校で場面状況について、話し合いをし、双方納得をした。本児が、ある児童に理解してもらえなかったと悲しんでいると周りの児童が、「やめよ。」とかばってくれることもあり、仲間関係が構築されつつある。また、1対1場面で、本児が聞き取りにくかったので、「(はてなの顔つきで) 何。」と聞き返した時も再度答えてくれて、意思疎通が図れたといううれしかった体験をしている。

- ・活動の具体的内容

【水泳】

〈耳元で大きな声で話しても聞こえるかどうか分からない場面〉

- ① 指示・伝達支援（筆談パットアプリ [図1] +ゼスチャー）
- ② ペア学習支援 [水中じゃんけん]（筆談パットアプリ+合図）
- ③ 泳ぎの評価（筆談パットアプリ+ビデオ、笑顔称賛）

〈支援するにあたっての配慮〉

- ① 友達とのコミュニケーションを大切にする。
 - iPad 使用頻度と友達とのコミュニケーションのバランス
- ② 筆談パットアプリを使用する際には、簡便に伝える。
- ③ iPad による指導日数が増えるごとに、指示・伝達機能としての活用が減り、評価・称賛機能（表情を含む）としての活用が増えていく。（表1）
- ④ 戸外で使用するので、明るさを調整する。



図1 筆談パットアプリ使用

⑤ iPad 提示のタイミングと教師の立ち位置の設定

新しい活動→正面で即時提示
以前に行った活動→正面で1mほど離れ、
2秒程度待って提示

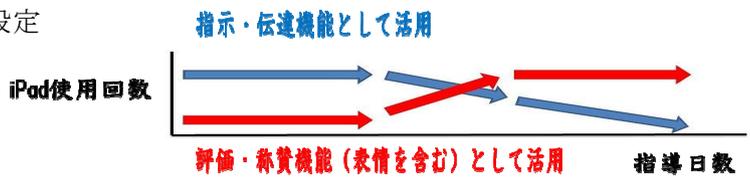


表1 iPadの機能活用と頻度

⑥ ペア学習支援 (水中じゃんけん)

筆談パット指示→

担任が、合図『じゃんけん (肩を触る)、ポン (本児の肩を軽く叩く)』を出す。

⑦ 泳ぎの即時評価を筆談パットアプリで、授業後の事後評価をビデオで行った。

【自立活動】

〈iPad 活用による学習支援 [『話す』『聞く』能力向上] (1学期)〉

① 聞き分け、聞き取り (Power Point, Touchwriter アプリ)

② 音量 (NoiseLevel アプリ)

③ 発音、口形模倣 (カメラ [動画ミラー]、口形図)

④ 息の出し方、舌の使い方 (カメラ [動画ミラー]、舌の位置図、ストロー、ガラガラうがい)



図2 タブレット PC 授業研究

〈iPad 活用によるコミュニケーション支援 [会話スキル向上] (2学期)〉

① 発音 (タッチカードアプリ、NoiseLevel アプリ) アプリを変更したが、1学期同様に発音指導をした。

② 同音異義語等の意味理解力 (『よい』『よく』等) (ビデオ、iWorkNote!アプリ)

同じ言葉でも意味が違う場合を理解することにより、双方向のコミュニケーション力を培う。

実際に交流学級児童の出題により、学習意欲を喚起させる。

(ア) よくがんばる。A とても B ちょっと

(イ) よくテレビをみる。A 何回も B たまに

(ウ) よいけしき。A たかい B きれい

(エ) よくたべる。A ちょっと B たくさん

(オ) ひとがよい。A こころやさしい B いじわる



図3 iWorkNote!アプリ

③ 集団での会話スキル (ビデオ)

[会話スキルのきっかけ]

下校時に友達同士が遊ぶ約束の話をしているところに、「(嬉しそうに) 何。」と加わろうとしたが、「〇〇さんには、関係ない。」と言われた。帰宅した本児が落ち込んでいたので、母親が理由を聞いた。次の日に学校で場面状況について話し合いをし、双方納得した。友達関係が良好の時には、「何。」でも受け入れられる場合もある。

場面の状況により、会話スキルが変わることを知り、双方向のコミュニケーションを成立させることができる。実際に交流学級児童が会話ビデオに出演することにより、会話スキルを考えやすい場面を設定する。

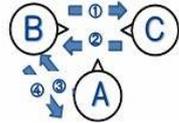
(ア) マンツーマン



Aさん(本児)	Bさん
(聞こえません。)	①正面を向いたBさんが、 小さな声で話している (ビデオ)。
②AさんがBさんに、 もう一度言ってください。	

表2 マンツーマン場面会話表

(イ) 二者会話介入



Aさん(本児)	Bさん	Cさん
聞こえません。	①BさんがCさんに向かって、小さな声で話している(ビデオ)。	②聞こえませ
T:Aさんは、Bさんに何とさえばいいですか？ A:もう一度言ってください。 T:Bさんは だれに 話しかけていますか？ A:Cさんです。		
T:「もう一度いってください。」は、だれが言えいいですか？ A:Cさんです。 T:Bさんは、だれの方を見て話していますか？ A:Cさんです。 T:BさんがAさんの方を見るには、どうしたら、いいですか？ A:名前を呼べばいい。 T:聞きたいことがあったら、なんて聞けばいいですか？ A:何の話をしていたの？ T:知りたいことがあったら、なんて聞けばいいですか？ A:わたしにもおしえて。		
	③Bさん、何の話していたの？ わたしにもおしえて。	④いいよ。

以上のように、1対1場面では、「何。」と言っても答えてくれることもあれば、2対1場面で「何。」と言って、仲間はずれのような対応をされる場合もある。そこで、聞こえなかったら、「何。」ではなくて、相手が仲間に入れようと思う言語スキルを本児が考えて、「私も教えて。」を日常生活で使用し、友達関係が円滑になるような題材である。勿論、言語スキルだけを獲得すれば、友達関係が円滑になるとは考えにくい。そこには、相手の言葉を正しく聞き取ること、聞き取りやすい発声、適切な応答、場の状況把握、相手の表情認知、相手の目を見て話すこと、自分の感情表現等のソーシャルスキルをも育成する。

表3 二者会話介入場面会話表

【家庭学習】

iWorkNote!アプリで同音異義語等の意味理解力(『よい』『よく』等)の問題を作成した。月曜日から金曜日まで家庭にiPadを持ち帰って問題に挑戦することで、理解の習得を図った。効果は大であった。

・対象児(群)の事後の変化

【水泳】

水泳のように聞こえにくい場面で、iPadによる指示が伝わったことによる意欲の向上や不安・ストレスが軽減された。まね遊び(ワニ歩き、カニ歩き、カンガルー跳び)、泳ぎの基本的動作(だるまから伏し浮き)、ペア学習(水中じゃんけん)を補助あり、ビート板なしで8mを泳ぐことができた。

【自立活動】

① 聞き分け、発音

学校と家庭で発音エラーが以下のような変化になった。担任、母親が観察者となり、右図のような形で確実に発音間違いが少なくなった。

② 同音異義語等の意味理解力(『よい』『よく』等)

家庭との協力の下、3学期よりiWorkNote!を活用して家庭学習をし、データで結果を表した。エビデンスの

【家庭学習】で報告する。

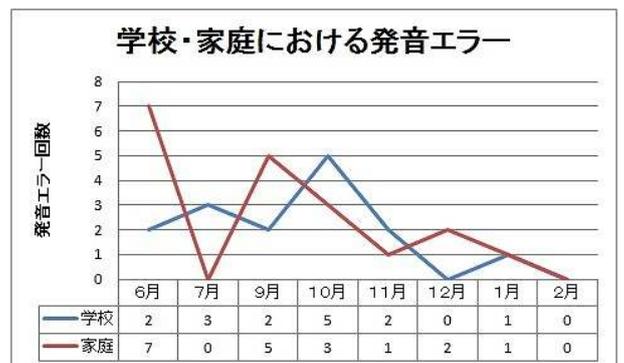


表4 学校・家庭における発音エラーの推移

③ 集団での会話スキル（ビデオ）

違った場面で相手を認める行動変容が見られたので、エピソードを紹介する。

平成25年1月23日（水）下校時

Aさん（本児）→横断歩道を走る。Bさん→「Aちゃん、わがままや。」Aさん→「何が。」Bさん→答えない。Aさん→泣きながら帰宅。

平成25年1月24日（木）朝

Aさん→兄から、横断歩道は、危ないから走るようにと教わった。

Bさん→並んでいなかったの、わがままやと言った。

指導者→そのときにどのように言えばよかったのかな？

Bさん→「先に行かないで。」と言えばよかった。ごめんね。

Aさん→「私も走ってしまって、びっくりさせてごめんね。」と言った。

帰宅後 Bさんが「何が。」の後に何も言わなかったことに対して、

Aさん→母親に「Bさんもなんて説明したらいいか考えてくれてたんやと思う。」

他の要因もあると思うが、言葉理解と会話スキルを学ぶことが、相手の気持ちを考えることに繋がるエピソードであった。

【家庭学習】理解言語を増やすことが、生活力をつけると考える。データは、後述する。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

指導するにあたって、重要視したのは、コミュニケーションの基礎である①発音指導②言葉の意味理解③適切な応答スキルを習得することである。集団での会話に入るコミュニケーションスキルは、本児のみならず、聴覚障害児が社会参加する上で是非とも獲得しなければならないスキルである。また、本児だけではなく、周りの児童も本児が補聴器を使用して聞こえにくい障害があることを理解し、お互いに相手の気持ちを考え合うように学校生活を送る指導をしなければならない。そこで、ビデオを使ったスキル学習において、交流学級児童が出演し、普段の生活に近い状態を設定した。聞こえなかったら「何。」と問うスキルから、教師と一緒に相手に不快な気持ちをや誤解を与えないコミュニケーションスキルを考え、日常生活で使用してくれればと願う。集団での会話に入るコミュニケーションスキルを学習することにより、あらゆる場面で、自分の発言や行動を見つめ直す機会につながり、セルフチェックできるように育ってきている。また、コミュニケーションスキルを獲得することより、友達との良好な関係を構築して、豊かなQOL(Quality of life；生活の質)を向上させたい。

・エビデンス（具体的数値など）

【水泳】母親のエピソード報告により、不安が軽減されている。（表5）

【自立活動】表4 参照

【家庭学習】

担任が問題作成し、母親が記録をしている。（表6）

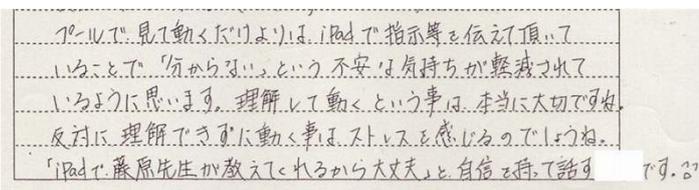


表5 プールエピソード

問題\日付	1/29	1/30	1/31	2/1	2/12	2/14	2/18	2/19	2/20	計
①トレーナーの内側	○	○	○	○						100
②時計が読める	○	○	○	○						100
③今月中	○	○	○	○						100
④時計が進む	○	○	○	○						100
⑤謝るのが先	○	○	○	○						100
⑥よく考えなさい	○	○	○	○						100
⑦よく歯を磨きなさい	○	○	○	○						100
⑧くじがよく当たった	×	○	○	○						75
⑨木に葉がよくなる	×	×	○	○						50
⑩また来たいな					○	○			○	100
⑪窓を開けてほしい					○	○	○	○	○	100
⑫トレーナーの下					○	○	○	○	○	100
⑬3ヶ月後					×	○	○	○	○	80
⑭すぐに計算します					×	○	○	○	○	80
⑮電車が読れる					○	○	○	○	○	100
⑯電車が読れる					○	○	○	○	○	100
⑰病気になる							○	○	○	100
⑱雪が降っているけど、行くよ							○	○	○	100
⑲いただきます							○	○	○	100
⑳ごちそうさま							○	○	○	100
㉑地震の時、何をしましたか								×	○	50
㉒地震の時、何をしましたか								○	○	100

表6 家庭学習正答率